

.....

全学ポートフォリオ通信

http://www.nara-edu.ac.jp/students/portfolio_top.html

.....vol.014 ... 2016.8

こんにちは、全学ポートフォリオサポートデスクです。

突然ですが、これまでに誰かから、思わずハッとするような質問を受けたことはありますか。

また、思考を促すよい発問が準備されている授業を体験したことがあるでしょうか。

おそらく、どちらも体験した
というかたは、多いと思います。

では、自分で考えるための質問を作ったことはありますか？

前期の自己評価期間がはじまりましたので、
今回は、「自分に問う」学び方について
いくつかご紹介したいと思います。

目次

◆ 学生のみなさんへ

- ・ できたことについて問うというふりかえり方
 - 自己評価期間がスタートします
- ＜文献紹介＞「できたことノート」

◆ 先生がたへ

- ・ 質問をつくるという学び方

<文献紹介>

「たった一つを変えるだけ
クラスも教師も自立する『質問づくり』」

- ・ 【再掲】

後期の授業でのシステムのご利用について
ご相談を承ります。

◆ すべてのかたへ

- ・ 全学ポートフォリオシステム停止期間のお知らせ
- ・ 【再掲】「ならやま」に記事が掲載されました。
- ・ ご相談の連絡先はこちらです。

◇ ----- ◇

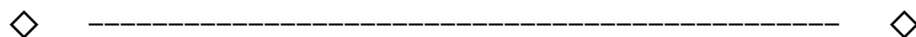
学生のみなさんへ

できたことについて問うというふりかえり方

- 自己評価期間がスタートします

<文献紹介> 「できたことノート」

<http://www.nara-edu.ac.jp/files/matome-portfolio.pdf>



学生のみなさん、

前期の自己評価期間が始まりますね。

学務情報システムで、前期の授業での学びを
数値で自己評価したあと、

全学ポートフォリオシステムで
提出物のリンクを貼ったり
文章化したりしながら

どれだけあなたが頑張ったのかを
記録しておきませんか？

そして、次につなぐ目標を
メモしておきませんか？

記録の方法や視点はいろいろありますが、
前回のポートフォリオ通信でご紹介した視点以外にも
たとえば、

- 1 できたことを書く
- 2 なぜできたのかを書く
- 3 本来の目的を思い出して

さらにできることを書く

という振り返り方があります。

このような振り返り方については、

▼ 次の文献が参考になります。

永谷研一【著】 「できたことノート」
クロスメディア・パブリッシング

この本によると、たとえば

「 レポートがわりとうまく書けたので
高評価をもらった 」

と記録した後、

「 なぜ、どんなところがうまく書けたのか？ 」

という問いを自分自身になげかけて
成功を分析することが重要なポイントになります。

そして、さらに

「 そもそもこのレポートを書くことの目的は何だったか？ 」

「 その目的から今回の結果を見直したとき、
さらに何ができるか？
後期はどのようなことに取り組むとよいのか？ 」

という問いを自分に投げかけていくことで、
行動目標を生み出していきます。

ここが面白いところだと思います。

～が理解できないままだった

といったような、できなかったことを分析するという方法もありますが、「できたことノート」は、できたことを分析し、本来の目的を思い出した後、その目的に基づいて、まだできていないことに気づかせるという作戦を採用しています。

これに従ってみると、たとえば次のようなふりかえりになると思います。

授業中の議論に活発に参加できた。
話しやすい雰囲気だったから思い付きをたくさん言えたと思う。
ただ、この議論の目的は～という専門用語の背景を探ることであった。
その目的からすると、積極的に発言したが背景まで考察できていなかった。
後期は専門用語について事前に調べて議論に参加することで、議論を深く掘りさげていけるようにしたい。(…などなど)

いかがでしょうか。

さまざまな振り返り方があり、面白いですね。

ご自身にあう方法で、具体的な行動目標を見つけてみましょう。

▼ 全学ポートフォリオシステムを用いた

ふりかえりの操作方法は、以下を参考にしてください。

<http://www.nara-edu.ac.jp/files/matome-portfolio2016.pdf>

▼ 今回ご紹介した文献

永谷研一【著】 「できたことノート」
クロスメディア・パブリッシング

・*☆*・ ・*☆*・ ・*☆*・ ・*☆*・ ・*☆*・ ・*☆*・ ・

◇ ----- ◇

先生がたへ 1

質問をつくるという学び方

<文献紹介>

「たった一つを変えるだけ
クラスも教師も自立する『質問づくり』」

◇ ----- ◇

前回のメールマガジンでは、

課題に取り組んでいる意味を
学生さん自身が模索する必要がある場合に
学習の意味を探る視点を提示している文献を
ご紹介いたしました。

一方で、

その視点そのものを探るプロセスに意味がある、

という主張をしている人もいます。

そのような主張を示しているのが

ダン ロスステインほか 【著】

吉田 新一郎 【訳】

「たった一つを変えるだけ

クラスも教師も自立する『質問づくり』

新評論

です。

「質問づくり」は
学習者が自分で考える価値のある質問を考えて、
それに自身で答えるということだけでなく、
質問を考える過程そのものも、学習過程に含めています。

この「質問づくり」の学び方には、
つぎの3つの思考ステップがあります。

1 発散思考

できる限りたくさん質問を考える

→ 話し合ってもまとめない

2 収束思考

質問の優先順位を決める

→ 基準も含めて話し合う

3 メタ認知思考

それぞれのステップの意味や

何を学んだかを振り返る

この過程で、先生方が何をするのかというと、

「1 発散思考」でたくさん質問が出てくるような質問の焦点（テーマや概念）を提示することです。

学習者が「ん？」「なぜ？」と疑問に思うようなテーマとして、たとえば

「拷問は正当化できる」（p. 71）

といったものです。

この本には、他にも質問の焦点や質問の事例がいくつか示されています。

また、授業の様子も示されているので学習者の変化を知ることができます。

「 授業のテーマにもっと関心をもってほしい！ 」

「 自分で学ぶ力をもっとつけてほしい！ 」

「 与えられたテーマよりも
もっと面白いものを見つけて学んでほしい！ 」

という場合は、ご参考になるかもしれません。

▼ 今回ご紹介した文献

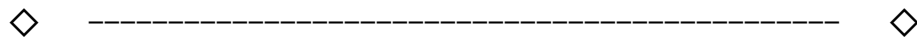
ダン ロスステインほか 【著】

吉田 新一郎 【訳】

「たった一つを変えるだけ

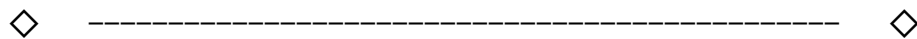
クラスも教師も自立する『質問づくり』

新評論



先生がたへ 2 【再掲】

後期の授業でのシステムのご利用についてご相談を承ります。



学生さんが半期の学習の振り返りをしている間、
先生方は評価を通して半期の授業を振り返り、
「次はこうしたい！」というアイデアを
育てていらっしやったのではないのでしょうか。

「 後期はシステムを利用して
学生さんが学習管理できるようにしたい 」

「 システムを利用して提出物をスッキリ管理したい 」

「 システムを利用して+ α の学習ができるようにしたい 」

「 時間や空間に縛られず、
学生さん同士の学び合いによって思考を深めたい 」

システムを用いることで
先生のアイデアの実現をお手伝いできるようでしたら
ぜひお気軽にお声がけくださいませ。

また、後期の早期履修者登録をお考えの場合も
ご相談ください。

(登録手順等についてご説明させていただきます)

・*☆*・ ・*☆*・ ・*☆*・ ・*☆*・ ・*☆*・ ・*☆*・ ・

◇ ----- ◇

すべてのかたへ 1

ポートフォリオシステム停止期間のお知らせ

◇ ----- ◇

システム更新のため、
下記の日程は全学ポートフォリオシステムが
ご利用いただけなくなります。

当日ご利用になる可能性がある場合は
ご注意ください。

▼ ポートフォリオシステム停止日
9月5日（月）13:00-17:00

◇ ----- ◇

すべてのかたへ 2 【再掲】

「ならやま」に記事が掲載されました。

◇ ----- ◇

広報誌「ならやま」で
全学ポートフォリオシステムについての紹介記事を
掲載していただきました。

ぜひ、ご一読くださいませ。

<http://www.nara-edu.ac.jp/guide/bulletin/narayama/>

◇ ----- ◇

すべてのかたへ 3

ご相談の連絡先はこちらです

◇ ----- ◇

全学ポートフォリオサポートデスク専用アドレスは、

「全学ポートフォリオシステムを使ってみたい。」

「私のゼミで使う場合、どんな機能が便利？」

「課外活動の記録を残して、次年度の後輩にも
見せてあげたい。」

「そもそもどのようなことができるのでしょうか？
説明しにきてくれませんか？」

「このような場合はどうしたらよいのでしょうか？」

などなど、ご相談いただける窓口です。

お気軽にご連絡くださいませ。

▼ 全学ポートフォリオサポートデスク専用アドレス

< dpfsupport@nara-edu.ac.jp >

★ つぎのフォームをメール本文にコピーして
御相談内容を編集してお送りください。

===== メールフォーム =====

== メール本文にコピー&ペーストしてご利用ください ==

お名前 ()

所 属 ()

学籍番号 ()

ご連絡先 ()

お問い合わせの概要

()

※ 要望、質問、システムの不具合の報告、相談等ご自由にご記入ください。

▼ システムの不具合の報告の場合、
上記にプラスして以下の情報も
添えてお送りください。

ご利用機器の種類 例：スマートフォン
()

OS 例：Windows8, MacOSX, Android5 等
()

ブラウザのバージョン 例：InternetExplorer11, GoogleChrome 等

()

問題が生じたメニューのタイトル

例：「ポートフォリオを見る」等

()

操作上の問題が生じた受講科目名

例： ～概論

()

===== メールフォーム終わり =====

◇ ----- ◇

発行責任：教育情報システム運用検討部会

全学ポートフォリオシステム運用開発検討チーム

(座長：宮下俊也)

編集責任：全学ポートフォリオサポートデスク

(担当：次世代教員養成センター・望月紫帆)